

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2023

課題番号：16K03207

研究課題名（和文）ドイモイ期のベトナム農村における人口移動と社会変化に関する地理学的研究

研究課題名（英文）A Geographical Study on Migration and Social Change in Rural Area of Vietnam during Doi-moi period

研究代表者

筒井 由起乃 (TSUTSUI, Yukino)

追手門学院大学・文学部・教授

研究者番号：10368186

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、市場経済化を進めるベトナム農村において、個々の経済活動がどのように展開し、社会や地域の特徴がどのように変化しているのかについて、人口移動という観点から明らかにすることを目的とした。途中、コロナ禍に見舞われたため、当初より3年間延長し、計8年を要することになったが、人口データを分析するとともに、地域性の差異が大きいとされる北部、中部、南部それぞれの農村でフィールドワークを実施して、国内移動にとどまらず国際移動も視野に入れてその実態を明らかにすることができた。また、そうした人口動態が農村社会にどのような変化をもたらしたのかについても、地域性に考慮しながら検討することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2023年現在で、在日ベトナム人数は56万人を超え、中国に次いで二番目に多い。その意味で、ベトナムにおける人口移動の実態解明は、日本の労働力獲得といった点からも重要である。

研究成果の概要（英文）：Our study aimed to clear how individual economic activity expand and how the social and community characteristics change in rural Vietnam during doi-moi period in terms of migration. We planned to study from 2016 to 2020 but because of Covid-19, we extend to 2023. We had to change the plan, but we could continue to try going on the study and carry out the field survey in three areas in Vietnam (Bach Ninh province in the North, Thua Thien Hue province in the Central, Ben Tre province in the South). As a result of these field surveys and some analysis of population data, we could clarify the migration in rural area of Vietnam and its influences on rural community.

研究分野：人文地理学

キーワード：人口移動 農村社会 社会変化 ベトナム 国際研究交流

1. 研究開始当初の背景

本研究で対象とするベトナムは、1986年にドイモイ政策を導入して以来、それまでの社会主義経済路線から大きく転換し、国際経済へ参入するとともに市場経済化を進めてきた。国民の3分の2以上が居住する農村地域では、それまで集団で管理運営されていた農地が個人へ分配されたことで、農民は自らの意思決定によって営農できるようになり、自らの裁量によって大幅に収入を増加させることも可能となった。移動の自由や農地（厳密には農地の使用権）の売買が認められるなど規制緩和が進んだため、都市部で農産物を直売したり、出稼ぎに出たり、新天地へ移住したりするなど経済活動の選択肢が拡大した。このような経済活動の変化は、社会のあり方や人々の意識・価値観にも影響をおよぼしており、「ドイモイ」は社会に広く変革をもたらしたともいえる。

ドイモイ政策によって研究活動も活発化している。これまでは限られた資料の中で議論され、ともすれば一般論に終始しがちであったが、文献資料や行政資料へのアクセスが改善されたことに加え、フィールドワークも可能となるなど、新たな資料に基づく独創的な研究が発表されるようになった。国内外の研究者間の交流や共同研究も進んでいる。2010年には、ベトナム地理学会がホストとして「東南アジア地理学会（SEAGA）第10回国際会議」を開催するなど、国際的な連携も強化されつつあり、さらなる研究の蓄積と進展が期待される場所である。

研究代表者は、このような状況のなかで、ベトナム研究に従事してきた。研究代表者の大きな研究テーマはベトナム社会の特徴を把握することであり、これをドイモイという社会変容期における経済活動や社会活動の動態のなかから読み取ろうとしてきた。まず農村における農地利用、社会組織、出稼ぎといった事象に着目し、主に社会的ネットワークを切り口として研究を行った県というメソスケールを研究対象とし、集落村行政村という重層的な地域スケールのなかで比較することによって、ミクロレベルでの実態をより鮮明に描きだした。

ついで社会的に関心の高い子どもの教育に着目し、近年「教育の社会化」が唱えられるなかで幼児教育がどのように変化したのか、また国内で顕在化する地域性の違いや地域間の経済格差がどのようにあらわれているのかなどについて検討した。関心の広がりにもない、ベトナム北部・中部・南部地域の比較研究にも乗り出した。さらに最近ではベトナム社会を相対的に理解するために、オーストラリアなど国外のベトナム系コミュニティにも関心を向けている。

本研究は、研究代表者のこうした新たな志向性のなかで着眼されたものであり、ドイモイ以降のベトナムにおける経済活動や社会の変化を端的に表しているといえる、人口移動に着目している。人やモノの流動性が高まった結果、農村部から都市部への人口移動が進み、1992年に80%におよんでいた農村人口比率は2012年には68%となり、20年間で12%も減少した。さらに、近年では、そうした移動が国外へも拡大している。ベトナム外務省の発表によると、2012年現在で450万人以上（インドシナ難民の約3倍に相当）のベトナム人が103の国・地域に滞在しているという。この背景には、ドイモイ以降後の新しい価値観のなかで育った若い世代を中心に海外への関心が高まっていること、留学制度や労働力輸出事業の整備によって、海外渡航のハードルが低くなっていることなどがあると考えられる。2015年の段階では、留学生は6万人以上、労働力輸出事業による未熟練労働者はおよそ50万人も海外に出ているとされ、日本もその主な渡航先の一つになっている。

留学生のなかには、卒業後もそのまま現地に留まる者が増えている。ベトナムの経済発展とともに、物理的制約の少ない私費留学生が増加していることもあって、その数はさらに膨らみつつある。また労働力輸出事業も、「工業化・近代化」という国家目標の中で長期的な戦略と位置付けられていることから、拡大傾向にある。そもそもこの事業は1980年代に旧東ドイツ、ブルガリア、旧ソ連などの友好国との間で政府間協定に基づいて実施されてきた経緯がある。ドイモイ以降は、ライセンスを受けた企業が行っているものの、政府の長期的な国家戦略として、いぜん重要な意味を持っている。それは法整備が進められていることから明らかであり、2006年には「契約による海外派遣ベトナム労働者法」が制定された。さらに2009年には、「貧困者の労働力輸出推進を支援し、貧困削減に貢献するためのプログラム（2009 - 2020）」（首相決定71号）が出され、労働力輸出を貧困削減に結び付けるという試みも動き出した。

2. 研究の目的

本研究は、市場経済化を進めるベトナム農村において、個々の経済活動がどのように展開し、社会や地域の特徴がどのように変化しているのかについて、人口移動という観点からアプローチするものである。人口データを分析するとともに聞き取り調査を実施して、国内移動にとどまらず国際移動も視野に入れてその実態を明らかにしたい。合わせてそうした人口動態が農村社会にどのような変化をもたらしているのかについても、地域性に考慮しながら検討する。

3. 研究の方法

農村部の人口移動の実態とそれにより農村社会な影響を受けているのかについて、国際移動も視野に入れつつ、人口データの分析とアンケート調査および聞き取り調査の結果から実証的に明らかにする。具体的には以下の3点を考慮した。

フィールドワークによるミクロなデータを基にしながら、ベトナム北部・中部・南部といった広がりをもった空間の中でとらえる。

ベトナム研究者に海外共同研究者として積極的に関わってもらうよう働きかけ、研究交流を進めるなかで研究を発展させる。

研究代表者および研究分担者がこれまで行ってきた研究を生かし、「受け入れ」側の状況を視野に入れて研究を行う。

たとえば研究代表者は、オーストラリアのベトナム系コミュニティの研究も行っており、ベトナムからの「送り出し」を受け入れるオーストラリアの状況を理解している（実際にベトナム系移民数は2000年に2,087人、2010年に4,087人おり微増している）。また研究分担者は日本国内で進めている農村研究の知見から、日本の状況を念頭に考察することができる。さらに、研究代表者、研究分担者ともにベトナムでの豊富な調査研究経験を有し、ベトナム語でフィールドワークを行うことができる。海外共同研究者ともすでに共同研究の実績があることから、密に連絡を取り合いながら研究を進めることができた。

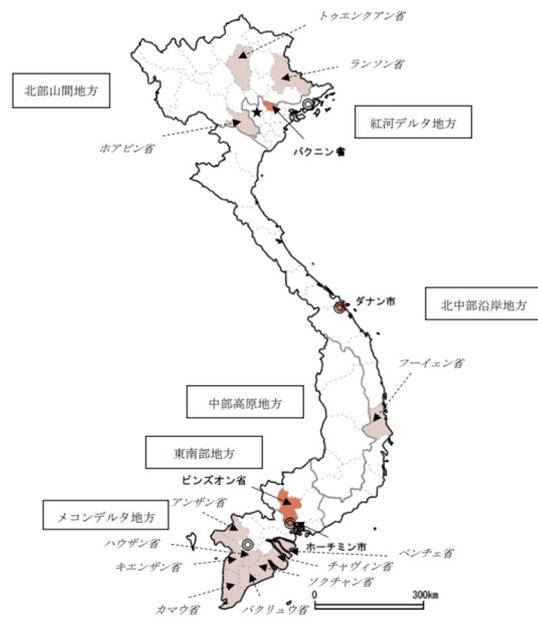
4. 研究成果

本研究は2016年度に採択され、当初2020年度に終了予定であったが、コロナ禍により予定していたフィールドワークを実施できなくなったため、3度の延長を経て、計8年間をかけることになった。コロナ禍においては、海外共同研究者とのオンラインでの打合せを実施し計画の修正や変更を行った。結果として研究代表者は立ち会うことは叶わなかったが、北部、中部、南部の3地域で、海外共同研究者を中心に本研究の柱となるアンケート調査を実施することができた。具体的な研究成果は以下である。

(1) ベトナムにおける省レベルの人口移動の実態把握

1990年代以降の省レベルにおける人口増減を検討することで、工業団地の開発にもなって人口移動が加速してきた経緯を確認し、最近では、北部の主要都市ハノイ市に隣接するバクニン省、中部のダナン市、南部のホーチミン市および隣接するビンズオン省において転入超過が顕著であること（2005年と2020年を比較）を明らかにした（図1）。なかでもビンズオン省は58.6%増加、バクニン省は35.8%増加と高い値を示していた。またホーチミン市とビンズオン省を抱える東南部地方では、地方全体でも18.7%の増加となっており、ベトナム随一の人口増加地域となっていた。

一方で、北部山間地方の3省（ランソン、トゥエンクアン、ホアビン）と、北中部沿岸地方のフーイエン省、そしてメコンデルタ地方の8省（ベンチェ、チャヴィン、アンザン、キエンザン、ハウザン、ソクチャン、バクリュウ、カマウ）では人口の転出超過が顕著であり、メコンデルタ地方全体でも10.5%減少していた。メコンデルタは国内でもっとも人口流出の多い地域であり、2019年のセンサスデータでも直近5年間で、人口1000人あたり40人の割合で流出していることが示された（筒井：2024）。



第3図 ベトナムの人口増加
出典：ベトナム統計総局公式サイトデータベースにより作成

図1

(2) ベトナム北部バクニン省における人口移動の実態

北部地域の代表として、国内でも人口増加が著しいバクニン省を抽出し、フィールド調査を実施した。コロナ禍の合間をぬうように、2020年3月から5月にかけてと2022年10月から11月にかけて、の2期にわたって行い、1回目は103世帯(有効回答のみ)、2回目は50世帯を対象として、アンケート調査(対面式)および聞き取り調査を実施した。2023年度には追跡調査を行い、現在分析を進めているが、移住者の大多数が経済状況について肯定的な意見を持っていること、元からの住民には、都市化の影響の違いによって教育レベルに有為な差がみられ、とりわけハノイ市の影響の強い地域では、高卒、大卒者の割合が高くなることがわかつ

た。また、個別の経済状況だけでなく、地域経済が発展したことにより、水道、電気、医療機関といったインフラの整備などが進んだとの認識が支配的であった。移住者が増加することにより、労働力の増加、人口の年齢構成の若返り、文化変容の機会拡大がみられたり、サービスビジネスの機会が創出されることで地元の人々の収入も増加するなど、よりポジティブな影響も認識されている。一方で、混住化にともなう諸問題や、窃盗などの犯罪の増加が懸念されている。

(3) ベトナム中部トゥアティエンフエ省における人口移動の実態

中部地域の代表として、トゥアティエンフエ省を抽出した。1999年から2009年にかけて、農業から工業・サービス業への経済再編を伴う経済発展と好景気を背景に、古都フエを擁するトゥアティエンフエ省においても、省内および省外への人口移動が増加した。本研究では、71世帯にアンケート調査（対面式）を実施した。これら世帯には、移住経験あり、あるいは移住中の人が92名いた。移住者を出すことで、世帯の経済状況や暮らしにはプラスになることが明らかになったが、一方で、生活の面では、不便が生じていることわかった（図2）。

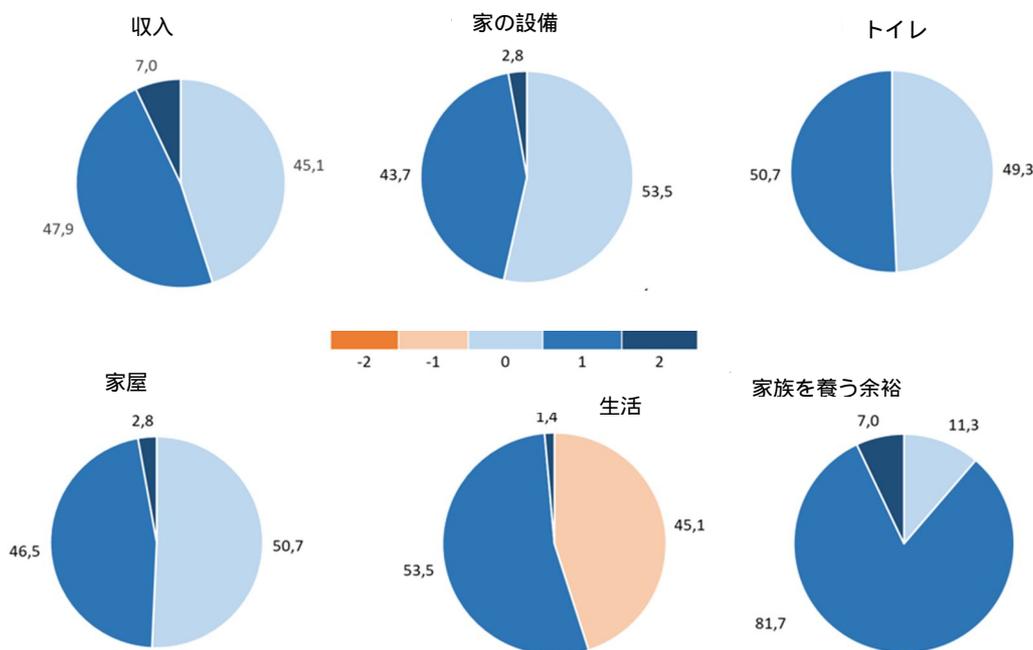


図2

(4) ベトナム南部ベンチェ省における人口移動の実態

南部地域の代表として、ベンチェ省を抽出した。流出超過の地域である。2019年10月に100世帯を対象にアンケート調査（対面式）を実施した。住民は、地方自治体に対し、収入が高く、安定している職を紹介してほしい、投資を呼び込んで欲しい、地域の治安に努めてもらいたい、という要望が明らかになった。

(5) 国際共同研究の進展

本研究においては、日本における研究代表者、研究分担者各1名に加え、ベトナムの3地域（北部・中部・南部）の海外共同研究者という組織体制を敷いた。ベトナムの海外共同研究者とは研究代表者が中心となり連絡をとりあったコロナ禍ということもあり、オンラインでのやりとりも行ったが、2016年、2019年、2022年には対面で研究会や研究打合せを実施した。ベトナムの北部、中部、南部はそれぞれ地域性が強いこともあり、地域を超えて議論することや、ベトナム人の専門家を招いての研究会は非常に有意義であった。また、3地域で共通のアンケート調査票を作成するにあたり、多くの議論を重ねることができたことも、ベトナム全体の人口移動の実態について考察するにあたり意義深かった。

< 引用文献 >

筒井由起乃「ベトナムの都市化と人口移動」ジオグラフィカ千里, 3, 125-135頁.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Nghim Tu Minh Hang, Do Thi Viet Huong, TSUTSUI Kazunobu	4. 巻 2
2. 論文標題 Danh gia ket qua thu hien muc tieu, Nhiem vu ve bao ve moi truong o tinh Thua Thien Hue theo huong tiep can dia thong ke	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ky yeu hoi nghi khoa hoc dia ly toan quoc lan thu XII	6. 最初と最後の頁 421-428
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 筒井一伸	4. 巻 30
2. 論文標題 地域運営組織と新しいコミュニティ 期待される機能と担い手の射程	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本地域政策研究	6. 最初と最後の頁 92-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32186/ncs.30.0_92	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 筒井 一伸	4. 巻 夏号
2. 論文標題 アンケート結果からみる移住ステップの重要性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 100万人のふるさと	6. 最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 筒井一伸・ギエム トゥ ミン ハン・ブイ ティ トゥ・ド ティ ヴィエト フオン	4. 巻 17-2
2. 論文標題 ベトナムにおける「新農村建設」の動向と農村地域の類型化 トゥアティエンフエ省を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域学論集	6. 最初と最後の頁 55-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 TSUTSUI, Kazunobu	4. 巻 11
2. 論文標題 Social trend and policy implication of Japanese rural communities in the past twenty years	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ky yeu Hoi nghi Khoa hoc dia ly Toan quoc Lan thu 11	6. 最初と最後の頁 465-472
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TSUTSUI, Kazunobu	4. 巻 Lan thu 10
2. 論文標題 Migration from Urban to Rural Areas and Community Development in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ky yeu Hoi nghi Khoa hoc dia ly Toan quoc	6. 最初と最後の頁 1210-1217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TSUTSUI, Yukino	4. 巻 2
2. 論文標題 Charactristics of the Population Distribution of Overseas Vitnamese	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Ky yeu Hoi nghi Khoa hoc Dia ly Toan quoc lan Thu 9 (第9回全国地理学会議論文集)	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Do Thi Viet Huong, TSUTSUI Kazunobu, Tran Anh Hang	4. 巻 1
2. 論文標題 Tiep can phan kieu trong danh gia so bo cac thon co nguy co de bi ton thuong doi voi thien tai lu lut; Truong hop nghien cuu o nong thon huyen Hoa Vang, thanh pho Da Nang (地域分類アプローチによる洪水災害への潜在的脆弱性の事前評価 ダナン市ホアヴァン県の農村地域におけるケーススタディー)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Ky yeu Hoi nghi Khoa hoc Dia ly Toan quoc lan Thu 9 (第9回全国地理学会議論文集)	6. 最初と最後の頁 93-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Do Thi Viet Huong, Bui Thi Thu, TSUTSUI Kazunobu	4. 巻 1
2. 論文標題 Tich hop "MENTAL MAP" va "STORY MAP" phuc vu chia se thong tin phat trien cong dong o xa Quang Phuoc, huyen Quang Dien, tinh Thua Thien Hue (トウアディエンフエ省クアンディエン県クアンフオック行政村における共有型地域づくりにむけたメンタルマップとストーリーマップの統合)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Ky yeu Hoi nghi Khoa hoc Dia ly Toan quoc lan Thu 9 (第9回全国地理学会議論文集)	6. 最初と最後の頁 1064-1072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 筒井由起乃	4. 巻 3
2. 論文標題 ベトナムの都市化と人口移動	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ジオグラフィカ千里	6. 最初と最後の頁 125-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/0002001281	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tran Thi Anh Nguyet, Le Thi Hoa Sen, Hoangh Dugn Ha, Tsutsui Kazunobu, Bui Thi Thu, Do Thi Viet Huong	4. 巻 21
2. 論文標題 Tac dong cua dai dich COVID-19 doi voi nu lao dong di cu tre tuoi o khu vuc ven bien tinh Thua Thien Hue	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Tap chi khoa hoc nong nghiep Viet Nam	6. 最初と最後の頁 1071-1080
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Do Thi Viet Huong, Nghiem Tu Minh Hang, Bui Thi Thu, Tsutsui Kazunobu	4. 巻 2023
2. 論文標題 Ung dung ArcGIS Online va VR 306 trong truc quan hoa ban do cau chuyen phuc vu quang ba diem du lich may tre dan Bao La, tinh Thua Thien Hue	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Ky yeu Hoi Nghi khoa hoc toan quoc VIETGEO	6. 最初と最後の頁 661-669
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Le Chi Hung Cuong, Hoang Dung Ha, Nguyen Van Chung, Tran Thi Quynh Tien, Vu Tuan Minh, Tsutsui Kazunobu, Bui Thi Thu, Do Thi Viet Huong	4. 巻 229(3)
2. 論文標題 Su tham gia cua cong dong vao hoat dong du lich tai xa Quang Loi huyen Quang Dien, tinh Thua Thien Hue	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Tap chi khoa hoc va Cong nghe-Dai hoc Thai Nghuen	6. 最初と最後の頁 343-351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 TSUTSUI, Yukino
2. 発表標題 Vietnamese in Australia in Transition
3. 学会等名 ICAS 10 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 筒井一伸
2. 発表標題 ベトナム農村における「過疎化」の発現と「コミュニティ課題の見える化」 日本における研究・実践の適用
3. 学会等名 システム農学会2018年度春季大会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 TSUTSUI, Yukino
2. 発表標題 Characteristics of the Population Distribution of Overseas Vietnamese
3. 学会等名 The International Convention for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 BUI Thi Thu, TSUTSUI Kazunobu, DO Thi Viet Huong
2. 発表標題 POPULATION AGING AND INHABITANT CONSCIOUSNESS OF COMMUNITY DEVELOPMENT: A CASE STUDY OF THE RURAL AREA IN THUA THIEN HUE PROVINCE, VIETNAM
3. 学会等名 25th Colloquium of IGU - CSRD (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Do ThiViet HUONG, Bui ThiTHU, TSUTSUI Kazunobu
2. 発表標題 Participatory GIS in Rural Community Development -Experiences from Education and Research Cooperation between Tottori University, Japan and University of Sciences, Hue University, Vietnam
3. 学会等名 BIEN2017Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 TSUTSUI, Yukino
2. 発表標題 Dac diem phan bo dan cu cua nguoi Viet Nam (在外ベトナム人の分布)
3. 学会等名 Hoi Dia Ly Viet Nam (ベトナム地理学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 TSUTSUI, Yukino
2. 発表標題 Gender Aspect of Vietnamese Labour Migrants and its Implications
3. 学会等名 The International Convention for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Bui Thi Thu, Do Thi Viet Huong, Ha Van Hanh, Truong Dinh Trong, TSUTSUI Kazunobu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Nha xuat ban Dai hoc Hue	5. 総ページ数 103
3. 書名 Phan kieu Kinh te - Xa hoi cap Xa o Khu vuc Nong thon	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	筒井 一伸 (TSUTSUI KAZUNOBU) (50379616)	鳥取大学・地域学部・教授 (15101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Workshop for Migration in Vietnam	開催年 2016年～2016年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校	フエ大学フエ科学大学	ベトナム国家大学ホーチミン市 人文社会科学大学